

はじめに

あいつ文としては「私」の方がいいと
思われますが、いかがでしょうか？

OK

医療に関して全くの素人であった自分が約10年前、救急救命士の資格を取るために、医療の勉強をすることになりました。何から勉強を始めたらいいか迷っていた自分に先輩達は「人の体のことを理解するには解剖生理が基本」と教えてくれました。「そうか。初めに解剖生理を覚えよう」と思い、本を開いたのですが、難しい漢字や言葉が多く、おまけに丸暗記する気にもならないくらいの分量がありました。これは時間がいくらあっても足りないなあと尻込みしたのですが、覚えなければ合格できません。試行錯誤して勉強を続けるうち、自分に合った勉強法を見つけました。それは人の体を「イメージ」することです。体のある部分のことを説明するのに、文章にすると結構な文字数になるのですが、図やイラストを使ってそのことをイメージできれば理解しやすく短時間で覚えられることが分かりました。OK

本書の特色として調整しました。

そんな苦勞話を、以前から救急隊員向け勉強会でお世話になっている旭川医療センターの玉川進先生に話していたら、「解剖生理をイメージできる本を作ってみよう」ということになり、以前からお世話になっている東京法令出版の浅野優香さんに伝えたところ、企画が通りました。早速執筆者を募り、第1回目の編集会議を開いて……と、ここまでは順調だったのですが、いざ書き始めると同じ内容の本が出版されていたり、企画の方向性を見失い路頭に迷ったりといろいろな困難におつかり、気付けば企画を立ち上げてから3年の月日が過ぎていました。その困難を乗り越え、ようやく出版できたのが本書です。

本書は、全くの素人の方が医療の仕事を目指すために必要な解剖生理を楽しく学べるように「イラストは豊富に、文字は少なめに」を基本コンセプトに作成しました。医療の仕事には欠かせない解剖生理ですが、苦手意識を持っている方は少なくないと思います。少しでも苦手意識を解消して学習の一助としていただけると幸いです。

監修を引受けたいという

本書の作成に当たり、企画を立ち上げていただいた旭川医療センターの玉川進先生をはじめ、企画を通していただいた東京法令出版の浅野優香さん、そして豊富なイラストを書き上げていただいた旭川美術研究所の下里美鶴さんと平野瑠唯さんには、大変お世話になりました。また、方針変更を~~ご理解いただき執筆を辞退して下さった~~沼田一成さん、加藤康史さん、有働裕妃さん、仲島勇二さんにもこの場をお借りして感謝を申し上げます。

修正いたしました。

最後の一文、必要なものでしょうか？
ご検討ください。

平成 25 年 6 月

南宗谷消防組合中頓別支署 炭谷 貴博

執筆企画にもご協力いただきました。